

解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（14・下）

—— 金玉来さんへのインタビュー記録 ——

藤永 壯／高 正子／伊地知紀子／鄭 雅英／皇甫佳英
高村竜平／村上尚子／福本 拓／高 誠晩

A Survey of the Life Histories of Resident Koreans in Japan
from Jeju Island in the Immediate Postwar Period (14) — Part II —
— An Interview with Kim Okrae —

FUJINAGA Takeshi, KO Jeongja, IJICHI Noriko, CHUNG Ahyoung
HWANGBO Kayoung, TAKAMURA Ryohei, MURAKAMI Naoko
FUKUMOTO Taku, KOH Sungman

戦後の生活（続）

《ろくろを回す》

——大阪ではどういうお仕事をなさってたんですか？

金：僕，大阪は，小学校しか行ってないもん。

——えっと，だからあの，戦後ですね。戦争が終わって。

金：あ，戦争が終わってから帰ってきて，職につけた……職がないんですよ。母親が買い出ししてヤミ商売やりながら，俺は総連 [朝連] のところへ，手伝いに行きながら。しょうがない，俺もう，日本人なりかけた奴が，朝鮮人 [に] 戻ったから朝鮮人のため尽く

平成26年6月23日 原稿受理

大阪産業大学 人間環境学部文化コミュニケーション学科教授

さなきゃという気持ちで、まあやって。うちの母親もそういうのは認めてたからね。自分の夫がアカバルゲンイって言われるぐらいだからさ。息子[の]やることはいいことだと思って。だから大阪にいる時には、ひと月あったら、もう仕事なくなったりさ。そんな[に]仕事した記憶ないんです。

ただ自分で今思い出せば、自分の家へ、あの、ろくろ[ろくろがんな]ってあるんですね、ネジ切る。ふたりで会社こしらえまして、そのろくろをやったことあるんです。

——ネジを切る？

金：ネジをこう、水こう、かけながらゲーッとね。その時にそう、友達の弟も一緒に仕事やってたんだけどね。これ[ボクシング]やってるの、ボクシングやると、塩水、溶かして鼻、こう入れるわけ。こっから出すわけ。そしたら、殴られたら鼻血出なくなる。それ、うち来ちゃ、やってるんだね。なんだ自分のうちでやればいいのになあと思ったら、ある日またやってるわけ。なんだ、しょうがねえなあと思ったら、ガーッと声がしたの。で、便所から飛び出してみたら、ひっくり返ってたの。顔、血出して。青酸カリ。ということはね、あのー、ろくろで刃を焼き入れる時に真っ赤に焼いてね、その青酸カリをバツとつけて、つけるとこの刃がカーッ固くなるんですよ。それで使うわけ。だから青酸カリもこんな箱にいっぱい入ってる。それ間違えて飲んじゃった。

——間違えてる？

金：ほいで慌てて、あの病院までね、鶴橋の方へ走って行って、先生に「あの今倒れましたから助けて下さい」「何飲んだの?」「青酸カリらしい」「ああ、もうだめだよ」。すぐ来ないの。そういう経験ありましたね。これ同胞でね。

——あ、病院がですか。

金：ん？ いや、病院じゃなくてその亡くなった子が。

——碁を始めたのはいつからなんですか。

金：碁ね。昔、将棋だったんですわ。将棋やって、その大阪でそのろくろやってる時にはさ、その[一緒に会社をしていた]趙信済チョンジンジェ、あの、これね。こいつ勝負、徹夜でやって〈一同：笑い〉。徹夜ですよ。残業やって終わったら、徹夜でやって。んで、最後に行くとな、大して差がねえんだよね。将棋で覚えて。んで、もう17年かなあ。

ある日、将棋やってると、隣でこうやって、碁やんの[打つのを]見てたらさ、白と

黒でしょ。将棋はみんなあの、番号じゃないけど、兵隊の字がみんな書いてあって、動き方がちゃんとルールがあるんだ。[碁は] 白と黒でルールがないんでしょ、これ〈一同：笑い〉。見たら一生懸命やってんだよ。もう白と黒で並べてさ。見てるうちにね、なんか、楽しそうだ、広びろとしてさ〈一同：笑い〉。聞いたらね、[碁は] 陣を取るんだって。こうやってこうこう、殺しちゃったら取れるんだよと。

将棋は戦争やって、負けたやつ連れて来て。死んじゃうじゃん、ほんとな。死んだやつ連れて来て、自分のまた自分の祖国へ向かって鉄砲、鉄砲向けるわけだ、将棋はな〈一同：笑い〉。こう食いつくのね、これね。[碁は] こんな広いところ。先取った方が勝ちだから。これは宇宙の摂理。こりゃ正しいということで〈一同：笑い〉。

いや、[将棋から囲碁へ] 移った。面白い。あの、さっき言ったように、[将棋は] 取った兵隊をまた向こうへ、自分の祖国へ向かって鉄砲向けていくのは、どうも気に入らなかったからね、私。

《4・3事件について》

——4・3事件のころ、一生懸命日本で活動されてる時期ですよ。だから、1948年ぐらいだったら一生懸命、そのさっきの宣伝活動されてる時ですよ。

金：[4・3事件については] 全然知らないんだ。

——全然知らないですか。大阪でもその犠牲者の慰霊祭とかね、やってたとかいうふうな……。

金：そう、あったんですよ。だから僕ら法事行ったこと、あるですよ。いや、その事件で死んだという意識ないの。だから言わないの、お互いに。

——その法事は東京でですか？

金：その時は大阪の。

——大阪で、大阪の法事に行かれて？ 法事っていうのはそれ、国で死んだ親戚が？

金：そうそう。それで亡くなったから。で、亡くなったから法事だっていう気持ちで、飲みに行って、ワーワーってやってた記憶あるけど、そういう、そういうことが起きて死んだという意識はない。

—いつ分ったんですか。その、4・3。

金：だからそれずっと後だもん。ずーっと後で。本読んだりして、へえーって。

—それで、それは、じゃあ確認はされたんです？ 4・3で死んだのかどうかを、その法事の？

金：その時は全然分かんない。

—その時は分かんないですよ。後で？

金：そうそうそう。ああ、それでやったのかっというのはね。法事多いからさ、俺の民族はみんな法事は大事に守ってくれてるなあって気持ち強かったけど、まさかそのために死んでね、あちらこちらの法事っちゅうのは。

—どれぐらいの数、行っていたか覚えてます？ 1年に。

金：僕は3カ所ぐらい、行ったことあるね。

—それはなにか、村単位でやったっていうふうな形でね、新聞なんかには記事が残ってるんですけど、そういうご記憶は？

金：意識がないから、村単位か何か [分からない]。

—行かれた法事は個人のお家に？

金：個人のお家だと思いますよ。

—法事っていうのは亡くなってから何年目の法事じゃなくて、お葬式ってことですか？

金：いや、何年目の法事かも分かんない。だからみんな同じ日なのかなあって。まさか、ああいうことあって殺されたっていう、あれは知らないもんね。

—その行かれた3カ所は、同じ日に3カ所？

金：そうそう。だからね、同じ日だから。まあ、まず朝鮮民族、先祖を大事にする民族だなあ。何で同じ日、そうなのかなあ。だからそれ疑問だもんね。同じ日に死んだんだなあってのは、何か不思議で、もやもやとした気持ちはあったんですよ。

—それは、^{ハムドク} 威徳の人ですか。その法事やってるお家は。

金：いや、^{ハムドク}咸徳じゃないな、^{チュエジユド}済州島 [のほかの地域] だ。

——^{チュエジユド}済州島の人。それはどういう関係で行かれた法事なんです？

金：朝連とか何とかね、そういう出入りしてた。法事だよ、ちゅって。うちの国の場合はさ、法事だっつたら他人でも行くじゃないですか。法事だよっつたら「ああ、一杯飲みましょう」なんつって。こっちは分からずにさ、ああやああや。

——その時って何かお供え物とか持っていったり 〈一同：笑い〉、するんですか？

金：何かこう包んで行くんだよ。

——ああ、お金ね。お金で。いくら包んで行ったんです？ 〈一同：爆笑〉

金：まあ、あの時はどうなんだろう。金の価値わかんないけど、まあ1000円か。

——1000円ぐらい。それまた、大金。何年ぐらいかなあ。

金：僕にとっては出費だよ。500円でも [3軒で] 1500円。[1000円なら] 3000円。あの時は仕事はないんだよ。

——結構たくさんの方が来てたんですか？ その法事には。

金：うちの場合はね、法事となると結構集まるんですよ。^{さいしゅうとう}済州島の人間、とくにか分らないけれど、助けのあれ [相互扶助の精神] が強いからね。

——その3カ所はどこです？ 生野区の中？

金：あの、そのさっき言った^{チュンソ}中西支部のあの時ね。同じ日にあるっちゅうのは、なかなかなかったな（笑い）。

——何月何日か覚えてらっしゃいますか。

金：いや。

東京での生活

《結婚のため再び東京へ》

——東京に行かれたのはいつですか？ そうすると。

金：えー，だから結婚するころ。26歳で結婚したから25歳か。25,6ぐらいから東京ですね。

——ご結婚の前に東京に行かれたという？

金：そうそうそう。

——それはなんで東京に行かれることになったんですか？

金：あのね，その時はまだ共産党でバリバリやってた時でね。で，大阪から東京に行った時，あの，いい女の子がいると〈一同：笑い〉。周りからね，身内の方から〔言われた〕。だから俺〔東京へ〕よこせと。ほいで，行ったと思いますよ。まあそんな時，組織からパッと離れたんだね。

——え？ 女の子の？ 〈一同：笑い〉

金：で，その女の子はあの，朝鮮の子なんですが，もう結婚しましたよ。結婚したけど，浮気して別れちゃった〈一同：笑い〉。

——じゃあ26歳の時に結婚した奥さんが今の奥さん？

金：じゃないです。もう今3回目です〈一同：笑い〉。

あの2番目の人は日本の方でね。子どもふたり産んで，あの胃癌で亡くなりました。で，3回目は，この人はまた朝鮮の済州島さいしゅうとうの出身の人で，まあ，あの舞台で歌手やってた人でね。

——東京行かれたのはなに，ご結婚のために行かれた？

金：そう，そういうことですね。

——それでその時にもう，組織もやめられた？

金：そのころだと思いましたけどね。

——でもあの，総連なんかの時にはまだ加わっておられた？ 総連結成の。

金：そうですね。

——大阪に終戦後来て，お母オモさんと一緒に住んでて，朝連の活動してて，それで結婚話，

いい娘さんがいるからって東京に行って、結婚なさって。

金：結婚。大阪，式，大阪へ戻って。

——式は戻ってきて。その時お父さんはいらっしゃってたんですか。

金：うん。いたんだけども、別で。

——別に住んでた？

金：うん。別の……なんて言うの？

《活動家として》

——大阪におられた時は、そしたらあの4・24の阪神教育闘争^{⑥-*16}のころも？

金：うん。教育闘争のころはね、僕は東京にいたんですけどね。

——もう東京に行かれてたんだ。

金：東京にいて、あの新聞記者のこれ〔腕章〕をもらってね。これをもらって、情報、「あそこに警官何名いるよ。こっち行け」とかさ。その担当やってさ。

——それは、どこでもらった？

金：どこなのか、くれてさ。新聞記者に化けたんだね。そのころも警官は、そう新聞記者、そんなうるさくしなかった。で、今思い出したけど、朝鮮の××〔聴き取れず〕集めて、こう、バシッ、バシッって行くわけだ。で、俺は〔デモ隊の〕一番前にいてた。一緒にやったやつはね、総連〔朝連〕の幹部の息子がお父さんひっぱってきて、お前、どこ行ったと思う？ いっちゃん〔一番〕後ろに〈一同：笑い〉。

——幹部が後ろに〈一同：笑い〉。

金：自分の息子がよ、殴られたらかわいそうだと思って〈一同：笑い〉。殴るんだから。今納得するけどね。あの時はこんなー、幹部のくせになんだと思ってんだ。ほんとに闘いに来たのかって気持ちを持ったんだ、いわゆるね〈一同：笑い〉。〔息子を〕引っ張ってっから、どこ行くかと思ったら一番後ろに〈一同：笑い〉。

——あの、その時は朝連ですけども、朝連の活動をなさってたんですか？ おそらくその

腕章も朝連の方からもらったんで……。

金：と思いますね。なにしろ、軍隊育ちだから、気合入ってっから、利用したんじゃないの。

——あの、街頭での闘争は得意なんですか？

金：そうだよな〈一同：笑い〉。と思いますよ。だから意識している半面と、無意識で動いてる半面とあったと思いますね。

——その日本共産党の党員になってらしたんですか？

金：なんかね。偉い役じゃないけど、なんか細胞の中でも上のクラスへ行っみたいよ。

——手続きというか、党員になる、なにか手続きはあるんです？ 紹介者がいてとか？

金：なんかいたんでしょね、ええ。なんで俺がこんな立場にいるか分かんなかった。

——じゃあ、正式に党を辞めたというような、その、なんか、それもないんですか？

金：あのね、何でかと言うと、日本の革命がなければ朝鮮に革命は来ませんよ、と。そうかって、なった。日本に革命が成功しなければ朝鮮は解放されませんよ、と。それ、俺の心をぐっと締めつけた。だから共産党なにしようが頑張ちゃおうかなあと思っちゃうじゃない。まあ俺もその時、[考えが] 浅いからね。

《組織を離れて》

金：僕自身がね、ある時期からね、その組織を離れちゃったんです。今さら日本人恨んだっしょうがないんだ。僕たちの先祖がね、弱いからやられたんだからって気持ち強かったから。自然に組織から離れちゃって。

——じゃあ、総連ができるころには、もう加わっておられなかった？

金：総連、総連の時はまだいた。^{ブンフェジャン}分会長までさ、された [させられた] の。

——大阪でですか？ 大阪にいらっしやった？

金：東京です。

——東京で。^{ブンフェジャン}東京の分会長をしたんですか。^{ブンフェジャン}分会長はあの、どこの？

金：えーっとね……あそこはね、……記憶が切れちゃってんだなあ。

——東京の方で？　じゃあ東京の方でも少しはそういうところに関わってたんで……。

金：そうですね。だから支部に韓徳銖^{ハンドクス (12-24) ウイジャン}議長が来てね、講話っていうのか、話があるでしょ。そんな時俺、分かんなくてさ。1世とか2世っていう意味が分かんなかった。
「韓徳銖議長！」「何ですか？」「僕が1歳か2歳に[日本へ]来たらしいんですけど、[僕は]1世か2世、どっちなんですか」つって。これ、ほんと知らないから。

——それは、韓徳銖議長に直接、金玉来^{キムオンネ}さんがお聞きになったんですか？

金：うちの支部へ来て、2世ですか？　聞いたんです。分かんねえから。そしたら、「ああー、出生地が基本だから、あんた1世だよ」ちゅって。俺は初めて、ああ俺は1世なのか。それまで全然分かんない。1世か2世なのか。

——生まれたのは確かですよ（一同：笑い）。それが1世か分からない。

金：だから、出生地優先的[で]いくと1世なんだけど、僕の心の中はもう2世です。生まれたってだけで全然言葉も分かんない。風もどいう風吹いてる、もう意識ない子がね。1世って言われたって、ピンとこなかったね。ただ韓徳銖議長^{ハンドクス ウイジャン}が言うから、1世なんだなあっていう意識を持っただけ。だからいまだにね、1世って言ってもピンとこない。

《両親の法事》

——法事はどうされています？　今、先生とこでは。

金：9月5日、法事で。あの、僕の場合ね、法事をやるっていうのはその子どもがやるんですよ？　その子どもがどうい意識を持ってやるかによって、自由に任しいと僕は自分で考えてる。な、昔からこうやってこう、こう、こう、やらなきゃいけないとかって思ってない。僕は親に対し尊敬することであればいいなと思ってるから。父親の日はね（泣く）、母親と一緒に。

——お父さんと一緒に？

金：うん。だから9月5日なりますと、母親と父親の、父親母親の写真飾りまして。な、

うちの母親がなんかこう準備して作ったか知らないけど、それ相応の写真を。

——あるんですか。

金：残してくれて。父親が描いたそれ、祀ってやった。やり方は朝鮮式でね。

——陰暦ですか？

金：陽暦。僕の場合ね。

——こちらでもお母さんのお葬式というか……。

金：うちの会社の社長から、みんな、偉いやつからね、みんな来てさ、一緒に父親と母親の写真見て、「あー、今上^{いまがみ}さんとこの親はハンパじゃないなあ」って言うんです。ものすごいしっかりした顔してね。俺見ても惚れ惚れするもん、お父さん。

ただ僕の場合はさ、父親は自分の母親、置いてね、これして、もらった人でしょ。それも悔しい。悔しい。でもな、父親は父親だもん（泣く）。だから、父、僕の父親の場合は仕事も、仕事も探すのもあれだから、なんか苦学生で〔日本へ〕勉強に来たみたいですよ、最初はね。だからあの戦争中に、どっからか持ってきたか知りませんが、バイオリンのケース置いてあるわけですよ。お母さんいないときに出して、帰って来たら怒られてね。だから、音楽の血筋が今の長男へ流れてきてる。僕は全然、音楽、自信はないんだ。歌は好きだけどね。

《仕事について》

——東京に行かれてからは、どういうお仕事をしてたんですか？

金：東京はね、いやあ最初仕事なかったんでねえ。あちらちょこっと、こちらちょこっと。

——おひとりで生活してたんですか？ あ、結婚なさって……。

金：だから結婚しては、職がちよこちょこっと変わって長続きすることなかったんでね。ところが、ある日に嫁さんが働く会社が朝鮮人経営の会社なんです。そこへ推薦してもらって、入った。そこはね、トキワゴム。「ジョウバンゴム」って書くんです。常盤^{ときわ}ゴム株式会社。そこへ入りまして、その靴を作ったね。長靴。

——長靴？

金：その結婚した女房がそこで張り子をやったんです。張り子って靴をこう、作る張り子。それがもう、[妻が] 成績優秀でね。すごい給料。すごかったですよ。

で、そこへ入りましてね、僕は設計なんかも、やったこともないから、全然分かんないんだけど、そういう仕事やってるうちに、だんだん認められて、[常盤ゴムから大同化成へ移った後に] 設計やらざるを得ない立場に追い込まれちゃった。日産行ったり、トヨタ自動車行ったりして向こうの係りの者とね、地図[設計図?] 合わせて討議するわけですよ。あの、初めて見る。でもこれ覚えなきゃだめだと思った。自己流で、自学でね、覚えて。型へ、地図[設計図?] から型へはめ込んで、型を作って。

そこまでやってね、で、仕事バァーッともらったんですよ。だから、その社長、俺を認めてくれて、俺、小さい家持ってたけど、またもう一軒建てるときに、バーンって100万ぐらい、祝儀^{ブチネ}をバーンとももらいました。だから、生活はゆとりあったんですね。

—それはおいくつぐらいなんです？ 常盤ゴムに行かれたのが。

金：27か28か、どっちかな。常盤ゴム行って、同じ兄弟会社で大同化成ってあるんです。大同化成株式会社。これは、兄貴の会社ですね。僕入ったとこ、弟の会社。で、兄貴の会社、大同化成株式会社。で、そこは自動車の製品を作ってる。そこへ移ったんです。だから同族の会社、こっからこっち、引っ張られたんですね。それで部品を作る方の担当に移されて、もう今言ったような状況。

30年ぐらい。34年かな。そのふたつの会社合わせてね。僕はいまだに思うけど、朝鮮人の人は一生ずーっと仕事してるの、現実にね。ところが、あっち移ったり、こっち移ったりするうちに、30年も40年も働いたんだけども[年金の] 実績が残らない。僕は一カ所ずーっといたもんだから、実績はそのままずーっと残ってるでしょ。だから今、年金、堂々ともらえてる。だからね、結構俺知ってる人はさ、もらってないもん。ずーっと働いてるくせに、なんで。あっち行って、こっち行ってして、実績残ることないもん。そういう点では僕はね、すごーく恵まれたなあと思いますよ。

《子どもたちのこと》

—そしたら子どもさんたちは、学校はどこの学校に入れたんですか。日本の学校？

金：子どもたちはね、長男は日本の学校。んで、日本の学校から、朝鮮の学校行ったんだね。日本の小学校卒業して、朝鮮の。

——中級学校から？

金：そう。

——東京で？ 十条 [北区十条台] ですか？

金：十条，十条。中高級 [東京朝鮮中高級学校]。

——ああ，そうですね。十条の高校まで出られたん……卒業されたんですか。

金：そうそうそう。

——じゃあもう，^{ウリマル}朝鮮語も？

金：俺はだめだけれども。

——ああ，それで共和国の方にも何回か行かれたってことですね。

金：そうそう。[長男] 今辞めちゃってるけど，ここ [秋田] の本部 [金玉来さんの記憶^{コンファグツ}違いで「支部」] の組織部長^{チョジッブジャン}やってた。

——組織部長^{チョジッブジャン}やってたんですか。ああ，総連にずっといらして？

金：あれ，なんか，心変わっちゃったんだね。自分の産んでくれたお母さんは，民団の東京なんとかの女性の委員長みたいに〈一同：笑い〉。

——民団の方の委員長だった？

金：ええ。

——最近まで秋田の総連の本部 [支部] の組織部長^{チョジッブジャン}っていったら偉いですね。

金：偉いよ。次は委員長だもん。それを……。

——もう，その上はもう委員長なるはずだったのを辞めちゃって？

金：もうだいたい組織部長^{チョジッブジャン}が委員長なるんです。だからよっぽどなんか，考えが変わった何かがあったんでしょうね。もう無理に聞かないけどね。

——何年ぐらいに辞められたんですか

金：3年ぐらい経つのかな。

——何年のお生まれです？ 息子さん。

金：これ言われると〈一同：笑い〉、俺、自分の誕生日も、時たま、え？と思う時あるからさ。

娘だけは日にち覚えてるんです、12月24日って。あと誰も分かんないんです。

そして秋田へ

《通名について》

——日本の名前って、さっき何て？ イワガミさん？

金：今上^{いまがみ}。あの、何つつうの。改姓，改姓の法律ができた。

——はいはい，創氏改名。

金：創氏改名。んで何か話聞きますとね，今上^{いまがみ きんじょう}は今上天皇陛下の使うやつだから無礼，失礼だ。不敬に当たるって最初認めなかったみたい。だから，うちのお父さんの説明によると，[本来の姓の]「金」[という漢字]はゆっくり崩していくと，「今上」になっちゃうの。自分の祖先の守るために，これで「金」を残したいんですって言った。しばらくなんか許可出なかったけど，「そんならこのままで通します」言ったら，もうね，なんか通してくれたみたいよ。

——その話，初めて聞いた。

金：初めて聞いた？ そう言われてね，俺もこうゆっくり書いてさ。

——なるほど。あの起源についてはいろんな話があるけれども，それは初めて聞いた。

金：それでうちの今，再婚して済州島の今，入院してるね。あれ[妻]が改名が「天野」なんですよ。

——「天野」ですか。

金：これも最初認めてくれなかったみたい。

——「天」の字が入ってるから？

金：「天」が入ってるから，失礼だと。天野は「アマノ」だけど，「テンノ」でしょ。いや，読み方で「テンノ」。天皇陛下かってなっちゃうじゃん。あれが強かったんですよ。

そういう話を聞いたんです。

——その天野さんの本当の名前とか、朝鮮の。

金：天野，カン。

——あの，どっちのカンです？ [강と発音する姓には「姜」と「康」がある。]

金：ヤス，^{いえやす やす こうじゆん こ}家康の康。康順子。

——^{カンスンジャ}康順子。先生はあれですか。金氏って言うと本貫 [氏族集団発祥の地] はなに？

金：^{キム ヘ キム}金海金で，うちの私が^{キム ヘ キム}金海金氏で，うちのお母さんは，ええ，^{クァンジュキム}光州金氏。で，同じ
「^{キム}金」だけど，本貫が違うから。朝鮮人は同じ名前嫌うからね。

——お母さんは^{ハンドク}威徳ですか？

金：と思いますよ。僕もそこまでは……。

——あの，子どものころ^{チェジュ}済州に一度帰られて，そうすると，あのお祖父さん，お祖母さんは
どういう仕事ですか？ やっぱり農業？

金：農業ですね。うちのお祖父さん，ものすごい背が高くてさ。ロシア人じゃないかって，
ほんと。ほんで，うちの息子が，何か原簿？ 戸籍謄本の何とか抄本の，これ何とか将
軍で書いてあったからな。ああ，昔，^{ヤンパン}両班なのかなあっと思って。僕も組織にいるころ
はね，うちの先祖は^{ソンビ}スンビ [선비]。学識や高潔な品格が備わった人物]，スンビ。だから，
こういう革命のするのは当たり前だって，みんなにそう言ったの。

——あの，息子さんは^{チェジュド}済州島に行かれて。で，^{チョッポ}族譜 [本貫と姓氏を同じくする父系血縁集
団の家系を記載した冊子] を写して来たんですよ。

金：いやあ，あの一，向こうへ申請したんだね。民団を通して，民団に頼んで。

——ああ，民団を通して申請して。戸籍謄本を申請したんですか。

金：そしたらうちの息子が，載ってないんだと。

——出生届出がね。

金：南 [韓国] の方へは俺からしたら別国じゃん。だからそこへは連絡しなかったわけだ。

俺そんなの知らないじゃん、そのころは。もう、日本政府、申請すればそれで全部終わりだと思うから。息子いまだにね、「お母さん、だらしねえからね、無届や」ってね。それで申請して来たみたい。

いや、僕の場合さ、日本人としてさ、日本の軍隊行ったでしょ。日本の軍隊から位ももらって、戦争負けた途端にさ「朝鮮人野郎帰れ」って戻されたんじゃない。あん時は腹立ったね。だから、僕の場合はまだいい方でね。もっと苦しい思いしたりしてる人が結構いるんじゃないのかなあと思うんですよ。

《故郷への思い》

——^{ハムドク}咸徳に親戚の方？

金：いるはずなんです。

——連絡とかはもう全然ですか。

金：そうそう。僕に心の中に恐怖心があるんですよ。左翼の仕事やったりしたもんだから、向こう〔日本〕に左翼の家族がいるとなると、向こう〔済州〕でいじめられるんじゃないかなあっていうね、なんとなく、心にね、あるから。連絡もつけないし、向こうからも連絡来ないから。お互いにそういう状況です。まあ、死ぬまで1回行きますからね。

——息子さんは行きはったんですか？ 済州島に息子さんもまだ行ったことが……。

金：ない。息子はね、アメリカ1回行ってらるんですね。息子連れて、生きてるうちに1回行こうという気持ちは持ってます。だから……2、3年内に1回行こうかなあって。

——その、4・3事件って、戦後はもうずっと日本にいらっしゃるわけですよ。

金：そうそう。

——意識的に、^{チュジュド}済州島に行かないんですか？

金：今まで怖くて行かないよ（笑い）。

——親戚の方で、その4・3事件の時に被害を受けたとか、そういう話は聞いていらっしゃらないんですか？

金：ないんだ。うちはなんかちょっと右側みたいだった。あ、うちのお父さん離れて〔除いて〕

ね。右側ちゅうか、中立ちゅうかね。あの左翼の方じゃないんだ。だからそういう方に入っていかなかったんじゃないのかね、よく分かんないけどね。だから今あの、さっき言ったあの本読んでるとさ、右翼も左翼もないんだよね。もう民族の殺し合いだもん。

——^{チエジュド}濟州島の朝^{チョチョンミョン}天^{チンモクフエ}面の親睦会がありますよね。

金：うん。行ったことないってことはね、^{チンモクフエ}親睦会っていうのは、僕からみたら右翼に見える。

——民団の、昔から集まるとこだって、そういうイメージがある？

金：そう、そういうイメージ持ちちゃったんだ。ほんとに教育って怖い。片っぱの教育を受けちゃうとね、片っぱを悪く見え、映っちゃうんですよ。だから、そういう交流の機会を自分でフタしちゃうってわけ。

——奥さん^{ソギボ}も西帰浦の方には、もう、ほとんど行かれないんですか？

金：もう今は、倒れちゃった。失語症。ある程度、意識はしっかりしてるんだけど、しゃべられない。

——おいくつなんですか、奥さん。

金：えーっと、12歳下だから、73か。僕とひと回り違うんですよ。

——どういう経緯で秋田に来られたんですか？

金：これ、秋田に10年、足掛け11年目に入らね。東京で生活しとって、自動車関係の仕事で長年、もう30年近くやりましたからね。今、年金生活ですけども。秋田に、うちの息子が音楽家で今いるんですが、秋田の女性と結婚したんですね。僕も向こうでもう現役退いておりましたから、秋田のその嫁さんの実家が、滅びちゃった、なくなっちゃって。うちが空いてるから、どうせぶらぶらしてるなら、秋田、空気もいいし、来て生活しませんか（笑い）。ちゅうことで、「ああ、そう？」ちゅうて来たら、いいからさ。雪降ると寒かったけど、最初はね。いいとこだな、つって。そういう関係で来たんですね。何ら目的も何もないわけ。年金あるから、どこ行っても日本政府がつぶれない限り、俺ら生活できるなあっていう自尊心もあったんでしょね。いま振り返れば、まあ日本恨むことは何にもないと思うし（泣く）、少し寒かった。

* 本研究は科学研究費補助金（課題番号 24530639）の助成を受けたものである。